

 <p>名古屋大学農学部 同窓会報</p>	発行所 名古屋大学農学部同窓会 名古屋市千種区不老町 http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/
	編集人 北 将樹・山本浩之
	発行人 福島和彦
	印刷所 株式会社 クイックス

セコイア通信

新たな農学教育研究拠点の創設

名古屋大学大学院生命農学研究科長・農学部長 土 川 覚

名古屋大学農学部同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃から農学部および大学院生命農学研究科の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、心からお礼申し上げます。また、この春に卒業・修了を迎えられた皆様に、心よりお祝い申し上げます。今後の更なるご活躍を祈念いたします。さて、農学部（1951年創立）および大学院（1953年創立）は、これまでに10,000名の学士、修士6,600名、博士学位取得者1,600名を社会に送り出してきました。産業界、行政ならびにアカデミアで活躍できる次世代リーダーの育成を目指し、農学に関わる基礎から応用までの幅広い知識と能力を涵養する教育を実践してきました。

私は、今年度から農学部同窓会名誉会長を仰せつかっておりますが、名古屋大学と農学部・生命農学研究科の近況を、以下簡単にご報告させていただき、ご挨拶とさせていただきます。

まず、本年4月に創設される「東海国立大学機構」についてご紹介します。名古屋大学が所在する東海地域は、製造業が域内に高密度に集積した世界有数の経済圏ですが、大学が地域創生に貢献するとともに、地域の発展を取り込んで大学も教育や研究をはじめとする機能を飛躍的に強化させていくことが、強く望まれています。このような観点に立ち、名古屋大学と岐阜大学とは、東海という広がりをもった地域を視野において、大学の役割・機能を一層強化するための一体的な経営、つまり、一法人複数大学制度による「東海国立大学機構」を創設します。それぞれの大学の特色を活かした自律性を確保しながら、両大学の持つ機能とリソースを東海地域に展開し、大学のみならず地域、産業、行政などの発展に繋げようとしています。昨年10月には、松尾清一総長が、文部科学大臣から東海国立大学機構の初代機構長に指名され、機構執行部の体制が着々と整ってきました。

東海国立大学機構の中で、農学部・大学院生命農学研究は、大きな役割を担うことになりそうです。東海地域は、農林業においても主要な生産地域であり、食品加工産業も盛んです。名古屋大学と岐阜大学の農学分野にはそれぞれの強みがありますので、両者の教育研究リソースを統合することにより、農業および生物資源活用産業に関わる高度な教育研究拠点を構築

し、機能強化を図りたいと考えています。独自性を尊重しつつ補完関係を築くという、ユニークな農学研究教育の先駆けとなるべく両大学間で協議を続けています。また、東海地域における農学領域のプラットフォームとして「東海農学ステーション」を創設し、大学・産業界・地域の密接な連携を通して東海地域の農業の発展を支援する構想も進めております。さらに、アジア各国の大学および国際機関との間に形成したネットワークと施設・設備を活用し、グローバルな人材育成と研究の共創発展を図る国際プラットフォームの創設についても計画しています。なお、東海国立大学機構の創設にあたっては、法人組織の運営や両大学の強みを活かした教育研究強化のために、大学内の事務集約化も急速に進んでおり、目に見える形での変革が起き始めました。

同窓会も大きく変わろうとしています。毎年6月の名大祭時に行っていた同窓会総会および講演会を、昨年から毎年10月の名古屋大学ホームカミングデイに併せて開催することにしました（卒業生の皆様に母校にお迎えし、旧交を温めていただくとともに、現在の名古屋大学を地域の皆様にも広く知っていただく機会として、毎年10月の第3土曜日にホームカミングデイを開催しております）。また、同窓会評議員会、卒業・修了50周年祝賀会、同窓生在籍企業紹介等の行事も同日に行い、盛りだくさんなスケジュールとなっておりますので、是非、ご参加ください。今後も、学部・研究科の活動状況や研究のシーズについて情報発信するとともに、同窓生間や同窓生と在学生の間の情報交換と交流の場を提供していきたいと考えています。また、本研究科は、名古屋大学特定基金として「教育研究基金」を設置し、農学部・生命農学研究科の在学生の学業を支援する各種奨学金制度を設けています。次世代の育成に向けてご理解とご協力を是非ともお願いいたします。

農学部は2021年に創立70周年を迎えます。この間に、多くの方々が本学部・研究科を巣立られ、国内外のさまざまな分野でご活躍されていることをたいへん誇りに思っております。70年という重みを礎にして、学部・研究科とも、今後一層の発展を目指す所存です。



同窓会の将来を見据え、組織強化に取り組みます

農学部同窓会会長 福島和彦



名古屋大学農学部同窓会（セコイア会）会員の皆様におかれましては、平素より大学院生命農学研究科と農学部の活動に対して多大なご理解とご支援を頂き、心より御礼申し上げます。そして、学部・研究科を卒業・終了される方々にお祝い申し上げるとともに、正会員として入会されますことを歓迎いたします。また、学部・研究科で学び・過ごした日々を大切に、同窓の絆を熟成していただき、気候変動に直面する時代において各分野において中心的役割を担っていただき、ご活躍されますことを切に願っております。

私は、昨年10月19日のホームカミングデーに開催された総会において、会長を拝命致しました福島和彦と申します。1985年に農学部林産学科を卒業し、1990年に博士課程後期課程を修了、それから今日に至るまで、卒論配属された森林化学（旧林産化学）研究室に在籍しています。終始一貫してリグニンの生合成と構造解析に関する研究を行っております。次々回の総会までの任期ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、2015年9月の国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）、パリ協定（2015年にパリで開催された「国連気候変動枠組条約締約国会議（通称COP）」において合意された温室効果ガス削減に関する国際的取り決め）に代表されるように「環境」が世界の経済を動かす時代に突入しました。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、気候変動を1.5℃未満に抑えるためには、2050年までに世界の二酸化炭素ネット排出量をゼロにしなければならないとしています。すなわち、戦後日本の繁栄を支えてきた、石油化学、自動車産業等の産業構造から一刻も早く脱却することが求められているのです。我が国がオイルショック以降、先人たちが磨き続けてきた卓越した既存の省エネ技術ではCO₂排出ゼロは達成できないのです。今後、再生可能な生物生産に基づく産業構造へと変換していかなければいけません。今こそ、農学部・生命農学研究科で学んだOB・OG諸氏が持続的社会的構築、人類の存続のために一致団結して、それぞれの分野において中心的プレーヤーとして力を発揮していただきたいと思います。

SDGsは17の目標すべて達成されなければ実現しません。言い換えれば、社会の全体の変革を求めている

ものであり、社会を構成するすべての人々の協働の中で達成されるものです。これまでの大量生産、大量消費を前提としたビジネスは抜本的に見直されることでしょう。また、これまでの多くの仕事がAI（人工知能）に取って代わられる時代も早晚訪れるものと予想されています。社会・経済・環境を各方面から統合的に捉え、最適化することが肝要となってきます。農学部・生命農学研究科は自然と共生できる多様な学問分野で構成されており、そこで学んだ卒業生は持続的社会的構築のための新産業創成、あるいは新社会システム創出において、極めて高い能力と優位性を持っていると信じています。そして、同窓生のネットワークはそれらの目的を達成する過程で、強力な推進力になると確信しております。

このように、今後、同窓会の役割は益々大きくなっていくものと思います。同窓会活動は新たな人間関係を生み出し、新たなビジネスチャンスを生むきっかけになりますし、いろいろな業界、研究分野の考えを知ることにより、予期せぬヒントを得ることもあると思います。これまでに、農学部同窓会（セコイア会）は服部東穂特任理事が中心となり、卒業生のネットワークをより強固にすることを目的とし、2018年には各年代の会員からなる評議員会を立ち上げ同窓会の運営に関与していただくなど、体制強化に取り組んで参りました。今後は、同窓会の運営母体（理事会）を学内（教員）から学外（卒業生）に移すなど、この改革をさらに推進していく所存です。卒業生の多くが活躍する関東、関西地区の支部会員との連携を強化し、「卒業生のための卒業生によるセコイア会」を作って参ります。そして、セコイア会が在校生の支援に自発的にアクションを起こせるような組織作りを目指していく所存ですので、何卒、皆様方のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、農学部、生命農学研究科をご卒業される皆様方、社会はあなた方に大きな期待を寄せています。胸を張って、勇気を持って各自が進む道を切り拓いていってください。

定年を迎えるにあたってー遺伝学研究あれこれ40年ー

動物科学専攻(鳥類バイオサイエンス) 松田 洋一



名古屋大学大学院農学研究科の博士課程に進学し研究者を志した頃には、定年退職などはるか遠い先のことのように思われたのですが、早や40年もの歳月が経ちました。この間、国立遺伝学研究所、科学技術庁放射線医学総合研究所、北海道大学で研究を行う機会に恵まれ、そして最後に母校である名古屋大学で定年を迎えられることを大変嬉しく、そして光栄に思います。旧家畜育種学教室で近藤恭司先生のご指導の下に修士号をいただいた後、博士課程の3年間を特別研究生として国立遺伝学研究所でマウスを用いた細胞遺伝学研究に取り組んだことが、その後の遺伝学研究的の道につながっていきました。当時の遺伝研には全国の大学から最先端の遺伝学研究を志す多くの大学院生が集まり非常に活気にあふれており、互いに切磋琢磨しながら研究に励んだことが懐かしく思い出されます。学位取得後に就職した放射線医学総合研究所では、カニクイザルやマウスの生殖細胞における放射線誘発染色体異常とDNA損傷の修復機構の研究に取り組み、昼夜を問わず顕微鏡で染色体を観察する日々が続きました。その甲斐あって7年間にわたり積み上げた研究成果は国連科学委員会(UNSCEAR)で取り上げられ、放射線の遺伝リスク推定と許容線量決定のための重要な基礎データとなりました。その後、米国のロズウェルパーク癌研究所の研究者として2年3ヶ月にわたってマウスゲノミクス研究に取り組むことになり、研究の方向が大きく転換することになりました。この間、PCR、蛍光in situハイブリダイゼーション、DNAシーケンサー、マイクロサテライトマーカーなど、ゲノム解析の新たな技術やツールが次々と開発され、ゲノミクス研究の飛躍的な発展を身をもって体験しました。帰国後、米国での滞在を機会に基礎研究に取り組みたい気持ちが強くなっていた折、当時日本の染色体研究の中心であった北海道大学理学部附属動物染色体研究施設の教授に着任する機会を得ることができました。研究材料も研究テーマも何でもありという理学部の水が私にはよく合っていたようで、長年の夢であった脊椎動

物のゲノム・染色体進化の研究を実現することができました。ヤツメウナギから魚類、両生類、爬虫類、鳥類、そしてヒトを含む哺乳類に至るまで、染色体研究の対象とした動物は100種を超えます。中でも核型進化のメカニズム、性染色体の起源と分化、鳥類・爬虫類が持つマイクロ染色体の構造とその起源、異質倍数化にともなうゲノム進化などの研究にのめり込んだ10年間でした。

しかし、充実した研究生活を送りながらも母校に対する愛着は捨てがたく、また理学と農学の長所を統合できる新しい研究に取り組んでみたいと考え、最後の11年間は母校の発展に貢献できる道を選びました。名古屋大学では、先輩方のご努力で設立された鳥類バイオサイエンス研究センターの長として、多くのニワトリ・ウズラリソースを収集し、家禽では初めて遺伝モニタリングの系を立ち上げました。着任3年後にはナショナルバイオリソースプロジェクト(NBRP)の中核的拠点整備プログラムが採択され、ニワトリ・ウズラリソース事業の中核機関として我が国のライフサイエンス研究の発展に大きく貢献しています。また、ゲノム解析手法を用いたニワトリ・ウズラ変異体の原因遺伝子の同定や、種間雑種に見られる不妊や発育不全現象の分子基盤、ニホンウズラの全ゲノム解析などの研究にも取り組みました。これまでの研究生活を振り返ってみますと、実に多くの方々から多大な協力と支援をいただきながら教育・研究に取り組んでこられたことをとても幸せに思います。そして、いかなる環境でどのような仕事に就こうとも、謙虚な心と感謝の気持ちを忘れないことがいかに大切であるかを、定年を迎えるにあたり改めて強く感じています。最後に、私を育ててくださった生命農学研究科、そして名古屋大学に厚く感謝を申し上げたいと思います。長い間、ありがとうございました。

過去を顧みて今を思い、未来に期待する

小俣達男



私は1992年9月に杉山達夫先生が主宰されていた植物栄養・肥料学研究室の助教授として埼玉県和光市の理化学研究所から赴任してきました。それから早くも27年半が経ち、定年を迎えることとなりましたが、着任当時のことは今でもよく憶えています。東京周辺でしか暮らしたことがなかった私には、名古屋は緑の豊かな美しい街に見えましたし、また名古屋大学には垢もなく、開放的な雰囲気が新鮮でした。一方では、理学部出身で、モデル生物であるラン藻のことしか知らなかった私が、農学部でやって行けるか不安でした。実際、講義に必要な植物についての基礎知識を勉強するのに苦労しました。また、自ら実験をしていた研究所時代と異なり、学生さんと一緒に研究をするというスタイルに慣れるのも時間がかかりました。しかし振り返ってみますと、理学と農学、基礎と応用といった異なった立場から様々な研究対象に接し、他の人々と一緒に自然現象を見つめることは、私にとって貴重な経験でした。これがなければ、ともすると狭い視野からものを見がちな「引きこもり型」の私は、すぐに研究に行き詰まってしまったのではないかと思います。

さて、この約二十年の間、大学には大きな変化がありました。今、昔の記録や書類を整理していると、その変化の大きさに改めて驚かされ、思わずそれらに見入ってしまいます。私が名古屋に来た頃の研究室の財政状況のメモによれば、当時は校費が潤沢で、それだけでも研究が可能な状況でした。独法化に際して競争原理の導入による研究の活性化が図られた結果、競争的資金が主たる研究費となりましたが、近年、研究のコストも大きく上昇したため、今では競争的資金を獲

得できなければ研究を諦めるしかない状況になっています。はたしてこれが「想定内」であったのか私には疑問です。一方、当時から予見されていたこともあります。1999年の新聞記事は、国大協が独法化反対の立場から容認に転じたことを報じています。松尾稔先生がまとめられた報告は、独法化もやむなし、としながらも懸念の第一として「定員削減と経費削減が最重点課題となる結果、教官の負担がさらに増加し、教育研究の質的低下を招きかねない」と指摘しています。最近、日本からの論文数が伸び悩み、世界の科学界への貢献が相対的に低下して大学にも対応が求められていますが、過去の経緯から見ればこの責を大学に負わせるのは酷だと感じます。さらに大きな変化として大学院生の減少が挙げられます。二十年前には農学部における3月の博士学位取得者が40~50名でそのほとんどが日本人でしたが、今は総数が10数名で日本人は数名から10名弱しかおりません。以前に比べて勉学・研究環境が改善されているのに、なぜ大学院生が減るのかは大きな謎です。

私の退職報告のはずが、何だか暗い話になってしまいました。もちろん現執行部を中心に若手の方々が多様な問題への対応に全力を尽くしておられますが、諸先輩方にも大学の現状を共有していただき、後輩をサポートできる局面があれば、是非そうしていただきたいと考えて筆を取らせていただきました。大学の中には応援団がありますが、今は大学自身の「応援団」が必要だと思います。

令和元年度 同窓会役員

名誉会長	土川 覚 (研究科長・生物システム工学)	理事 (会計)	田中 隆文 (森林水文・砂防学)
会長	福島 和彦 (森林化学)		竹本 大吾 (植物病理学)
副会長	小川 雄二 (学外)	理事 (名簿)	犬飼 義明 (生物遺伝情報)
理事 (同窓会活性化特任)	服部 束穂 (植物細胞機能)	理事 (ホームページ)	小田 裕昭 (栄養生化学)
関東支部	石川 靖文 (学外)	理事 (会報)	北 将樹 (天然物ケミカルバイオロジー)
関西支部	加藤 壽郎 (学外)	事務	宮田 久代 (動物生殖科学)
理事 (総務)	山本 浩之 (木材物理学)	監査	邊見 久 (応用酵素学)
	三浦 健 (害虫制御学)		
	村井 篤嗣 (動物栄養科学)		
	渡邊 健史 (土壌生物化学)		

2020年度名古屋大学農学部同窓会 評議員会、総会、講演会、懇親会のご案内

昨年度に引き続き、今年度も、名古屋大学ホームカミングデーに合わせて開催いたします。詳細は、農学部同窓会 セコイア会 HP (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>)にてご案内いたしますので、後日ご確認ください。

○評議員会

日時：2020年10月17日(土) 昼頃

場所：~~名古屋大学農学部~~ オンライン配信の予定

○総会、講演会

日時：2020年10月17日(土) 午後

場所：~~名古屋大学農学部~~ オンライン配信の予定

会費：無料

講師：山本敦司(やまもとあつし)氏

農学博士(昭和58年3月本学農学部農学科卒業、昭和60年3月同博士課程前期課程修了)、現日本曹達(株) 上席主幹

講演題目：「～害虫防除に必要なもう一つのテクニック～ 殺虫剤抵抗性管理・対策を生産者に伝える」

○懇親会

~~日時：2020年10月17日(土) 夕刻~~

~~場所：名古屋大学農学部(予定)~~ 実施しません

連絡先：農学部同窓会 総務 山本浩之

メールアドレス：hiro@agr.nagoya-u.ac.jp

同窓会を開きませんか!?

農学部同窓会総会を機に、久しぶりに農学部に集まって同窓会を開催しませんか?

農学部同窓会の懇親会を1次会としてご利用いただくことができます。是非、同窓会事務局(dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp)まで事前にご連絡下さい。必要に応じて、同窓会ホームページを掲示板としてご利用いただくこともできます。

農学部第16回卒業生および修士第14回卒業生の卒業50周年記念祝賀会の案内

農学部第16回卒業生および修士第14回修了生の50周年記念祝賀会は、~~前回同様、名古屋大学ホームカミングデー(2020年10月17日)に合わせて開催する予定です。後日、祝賀会へのご招待状を送付させていただきます。~~
~~懐かしい先生方にもご参加いただけるかと思っておりますので、万障お繰り合わせの上ご出席ください。祝賀会、講演会、懇親会に関する情報は、農学部同窓会ホームページに掲載いたしますので、ぜひご覧ください。~~

本年度は実施せず、同窓会ホームページにご寄稿いただく予定です。

卒業生の言葉

大学生活を振り返って

生物環境科学科 森林化学研究分野 高木 杏華

名古屋大学駅の改札をくぐりながら、もう4年も通ったのか、と感慨深い気持ちになりました。長かったようで短かったような大学生活が終わろうとしています。

大学に入ってまず、自然や生き物がとにかく大好きな人たちとの出会いが刺激的でした。こんなにも好きなことに没頭している人たちに囲まれるのはそれが初めてで、入学時に特に興味があることもやりたいこともなかった私は憧れの気持ちを抱き、私も何か一生懸命になれることを見つけたいと思うきっかけになりました。

もともと高校時代には生物と化学を選択していましたが、大学の講義はとても難しく感じていました。専門の授業や学生実験を通して、有機化学やリグニンへの理解を深めたいと思うようになり、3年次での研究室選択では森林化学研究室への配属を希望しました。今では一緒に議論してくださる先輩方や友人に支えられながら、自分で考え行動し、知らないことを知れること、理解を深めていくことの面白さを感じられるようになり、毎日充実した研究室生活を送ることができてきます。卒業後は大学院へ進学し、現在進行中のテーマをさらに突き詰めていきたいと思っています。

今の私がいるのは、大学に通わせてくれた両親、熱心に指導してくださった先生方、そして困ったときにはいつも助けてくださった先輩方や友人の存在があったからです。本当にありがとうございました。

生物環境科学科の同期には卒業後進学する人、就職する人と様々ですが、一緒に進学する同期とはこれからも、時には楽しくふざけたり、時には高め合ったりできる関係でいられたらいいなと、そして就職する同期とは、会える機会は少なくなってしまうけれど、いつかお互い成長した姿を見せ合える日が来たらいいなと思っています。これから先、みんなが進んでいくそれぞれの道が、幸多きものでありますようにと祈っています。



大学生活を振り返って

資源生物科学科 害虫制御学研究室 荻野 眞由子

名古屋大学に入学してから、もう4年が経とうとしています。大学生活は学業だけでなく、本当に多くの出会いや貴重な経験の連続でした。とくに思い出されるのは、寮生活や海外研修、就職活動でしょうか。

私は4年間、名古屋大学の寮で生活しました。寮は日本、そして世界中から集まった学生との共同生活です。小さい頃から人見知りだった私は、寮に入って集団内での振る舞い方や上下関係を学びました。あの喜怒哀楽のつまった日々は、きっと一人暮らしでは経験しなかったでしょう。そしてここでの様々な出会いは、私に知らなかった世界の存在を教えてくださいました。

出会いを重ねるなかで、海外への興味も深まってきました。幸いなことに、名古屋大学には多様な海外研修プログラムがあります。私はこれらに参加し、ウズベキスタンやタイを訪れました。研修では自分で決めたテーマをもとに実地調査をおこない、私は現地の環境問題や農業について調べました。インタビューやホームステイなど慣れない土地での活動は大変でしたが、多くの協力のおかげで乗り越えられ、よりローカルな視点から現地を知ることが出来ました。様々な人と交流し、コミュニケーションや自ら動く大切さを実感した経験です。

就職活動はこれまでの人生の総括のようでした。自らを振り返り、分析し、具体的な言葉にする。じっくり自分と向き合い、今後の人生について考える良い機会でした。私は4月から、農学とは異なる分野で働きます。学部卒で就職するのなら、全く新しいことに挑戦してみたいと思ったためです。今後は働きながら仕事を学ぶこととなりますが、これまでの勉強や研究への姿勢を忘れず、新たな分野に活かしていきたいと思っています。

最後になりますが、私は本当に多くの人に支えられ、ここまで来ることが出来ました。全ての出会いに感謝します。ありがとうございました。



学生生活を振り返って

応用生命科学科 土壌生物化学研究室 大菅 康平

私が名古屋大学に入学したのは2015年の春でした。身寄りのない地での一人暮らしに大きな不安を感じながらも、漠然とした大学生活のイメージを膨らませてはわくわくしていたことを思い出します。早いものでそれからもうすぐ五年、私にも大学卒業のときが近づいてきました。私は一度の留年を経験しており格好のつかない学生生活となってしまいましたが、せっかくの機会を頂きましたのでこの場をお借りして自身の学生生活を振り返り、お世話になった方々に感謝を伝えさせていただきたいと思います。

私が大学在学中に最も入れ込んだのはサークル活動でした。趣味を共有できる仲間が欲しくて訪れた軽音楽サークルで気の合う同期に恵まれ、また魅力的な先輩方の振る舞いからたくさんを学びました。年次が上がると、サークルの幹部として運営にも関わることになりました。より面白い活動が出来るように、と毎日のように集まっていたことを思い出します。サークルは大学生活を通じた自分の居場所でした。先輩方にも同期の皆様にも感謝の思いは尽きません。

課外活動に夢中になって学業をおざなりにしてしまった私ですが、同じ名古屋大学農学部に進学した高校の頃からの級友の存在がありました。彼らが声をかけ続けてくれたことが、私と学部との接点、ひいては大学に通う理由になりました。また配属された土壌生物化学研究室の皆様、特に担当教員を務めてくださった先生は、私の出来の悪さを咎めることなく一年間通じて指導して下さいました。周りの支えあつての大学卒業でした、心から感謝しております。

最後に、両親には感謝してもしきれません。大学卒業が予定より遅くなってしまって、申し訳ない気持ちでいっぱいです。未熟につきま迷惑をかけることがあるかもしれませんが、精いっぱい頑張りますのでこれからもどうぞよろしく願いいたします。



学生生活を振り返って

植物生産科学専攻 植物病理学研究室 前嶋 浩香

名古屋大学での学生生活も終わりを迎えようとしています。私の父親は昔から“自立して生きていくように”とよく言います。大学生活は正に自立に向かうための期間であったように感じます。

特に3年次に参加した海外研修は、視野が広がる機会となりました。海外の学生との交流や、実際に海外へ行って目にした光景、各国の現状は、普段の生活では得ることのできない貴重な経験となりました。アルバイトでの経験からは、お金を稼ぐ厳しさと責任を痛感しました。また、研究活動を通して学ぶことのできた課題解決力や計画力は、社会に出てからも活かせる能力だと思います。

学部生と院生の6年間はあっという間で、これほど充実した大学生活を送ることができたのは、周りの人々のおかげだと感じています。入学した頃から多くの時間を共に過ごした友人たちには本当に感謝しています。試験勉強も、皆で協力して勉強する時間は楽しく、知識が深まりました。写真も数え切れないほど多く、友人との楽しい思い出が詰まっています。3年次に行った農場実習では、一緒に汗を流した学科の仲間との距離が縮まる機会となりました。

何より、研究室の同期は、大変なことも楽しいことも一緒に乗り越えてきたかけがえのない存在です。飲み会の際に「同期で本当に良かった」と話したこともありましたが、酔いがさめてもこの思いが変わることはありません。研究や就職活動といった真面目な話題も、くだらない世間話も、非常に楽しかったです。研究室が居心地の良い空間となったのは、大好きな同期がいてくれたからだと実感しています。

春からは新社会人となり、新しい環境での生活が始まります。大学生活で学んだことや感じたこと、そして人との繋がりを大切にしながら、さらに自立した人間になりたいです。

楽しい時間をともに過ごした友人たち、親身にご指導いただいた先生方や先輩方、いつも支えてくれた家族に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



令和元年度総会、講演会、懇親会の報告

令和元年度の総会、講演会、懇親会は、名古屋大学ホームカミングデーに併せて、令和元年10月19日（土）、農学部第3講義室において行われました。平成30年度の事業・決算報告を行った後、令和元年度役員を選出し、令和元年度事業計画・予算を審議しました。総会には63名の方が出席しました。

総会終了後、能木雅也氏〔大阪大学産業科学研究所

教授、第43回（平成9年3月）農学部応用生物科学科卒業、平成14年3月大学院博士課程後期課程修了〕による講演会「セルロースナノファイバーを使った未来のデバイスと名大農学部で学んだこと」を開催しました。本講演会は一般の方々にも公開され、90名もの皆様にご参加いただきました。講演終了後、農学部第7講義室にて懇親会を開催し、親睦を深めました。

農学部第15回卒業生および修士第13回修了生の卒業50周年記念祝賀会の報告

令和元年10月19日（土）、名古屋大学農学部大会議室において、農学部談話会との共催により農学部第15回卒業生および修士第13回修了生の卒業50周年祝賀会を開催いたしました。16名の卒業生・修了生の皆様をはじめ、談話会会員、現職員、および同窓会役員合計36名の出席で盛大に行われました。祝賀会では、生命

農学研究科長・農学部長 土川寛教授よりご挨拶をいただき、続いて、名誉教授寺島典二様による乾杯のご発声の後、昼食、歓談となりました。出席いただいた方々から自己紹介と近況についてのご報告をいただき、会は終始和やかな雰囲気の中進行しました。



ホームカミングデー 農学部同窓会関連行事報告

一農学部同窓会評議員会および同窓生在籍企業紹介一

日時：10月19日（土）12:00-13:45

会場：農学部講義棟第3 講義室

本会報内でもご報告しておりますように、2019年度よりこれまで名大祭期間に催されていた卒業50周年祝賀会、総会・講演会ならびに懇親会が名古屋大学ホームカミングデーの開催となりましたが、評議員会も同日50周年祝賀会と平行して開催されました。

昨年度より再スタートを切った評議員会ですが、昨年度の出席者数よりは若干少なかったものの、現在評議員になっていただいている方の約半数にあたる45名の



〈評議員会の様子〉

ご出席をいただきました。ご多忙のなかご出席いただきました評議員の皆様には改めてお礼申し上げます。

福島和彦副会長の挨拶、評議員自己紹介、土川寛生命農学研究科長・同窓会名誉会長の挨拶（祝賀会との掛け持ちをしていただいたため評議員自己紹介の後となっていました）に引き続き以下のような議事が行われました。

- ・「卒業生との連携強化委員会」（研究科内委員会）について
- ・同窓会の財政状況
- ・事務職員雇用の検討
- ・予算執行方法について
- ・同窓会運営組織の改革の検討について
- ・周年同窓会の推進について
- ・評議員メーリングリスト登録の件

●同窓生在籍企業紹介報告

時間：2019年10月19日（土）13:00-15:00

会場：農学部講義棟第7 講義室

この企画は、昨年に引き続き第2回目の開催となりました。生命農学研究科が全学同窓会支援事業の支援を受けて主催し、農学部同窓会が共催しました。同窓生が活躍する15の企業から同窓生の代表に参加いただき、ポスタープレゼンテーションをしていただきました。

参加していただいた企業は以下の通りです。

- ・中部飼料株式会社
- ・株式会社 UBE 科学分析センター
- ・日本製粉株式会社
- ・日本農薬株式会社
- ・クミアイ化学工業株式会社株式会社
- ・株式会社ナベル
- ・愛知県観光コンベンション局
- ・岐阜セラック製造所
- ・天野エンザイム
- ・竹本油脂
- ・株式会社カネカ
- ・ファイザー・ファーマ株式会社
- ・大建工業株式会社
- ・永大産業株式会社

学部・研究科の教員や学生のみなさんが多数参加し、活発に交流が行われました。熱心にさまざまな情報交換が行われ、進路に関する情報を求める学生・院生、また優秀な人材を求める企業にとっても大変有意義な催しとなりました。プレゼンテーションをしていただきました同窓会員の皆様、ご苦労様でした。お礼申し上げます。同窓会としても会員同士のつながりを広げる絶好の機会であり、また、学生会員の支援にもつながる事業として今後も積極的に後押ししてゆきたいと

考えています。このような催しでの出展にご興味のある同窓生、企業の方は、是非同窓会あるいは研究科の方へお問い合わせください。

この後、同窓会の紹介やケータリングによる懇親会も開催され、賑やかなホームカミングデーの1日となりました。



〈同窓生在籍企業紹介の様子〉



〈懇親会の様子〉

人事異動（2019年1月～12月）

日付	氏名	異動内容	職名	所属
2019.1.1	村瀬 潤	昇格	教授	大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター植物生産科学部門
2019.1.1	青木 里夏	採用	事務職員	農学部・生命農学研究科庶務係
2019.3.31	伊藤 正樹	退職	准教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.3.31	牧 正敏	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.3.31	下村 吉治	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.3.31	太田 岳史	退職	教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2019.3.31	金丸 京子	退職	講師	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.3.31	武市 全弘	定年退職	係長	農学部・生命農学研究科庶務係
2019.3.31	大森 保成	定年退職	准教授	大学院生命農学研究科附属鳥類バイオサイエンス研究センター
2019.3.31	川北 一人	退職	教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2019.3.31	北野 英己	定年退職	教授	生物機能開発利用研究センター開発・展開部門
2019.3.31	前島 正義	定年退職	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.3.31	富岡 利恵	退職	助教	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2019.4.1	豊田 紀弥子	昇格	主任	農学部・生命農学研究科庶務係
2019.4.1	日置 真優	昇格	副技師	全学技術センター生物・生体技術支援室生物機能解析・実験実習技術グループ
2019.4.1	谷川 東子	採用	准教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2019.4.1	古橋 悟志	配置換	事務長	農学部・生命農学研究科事務部
2019.4.1	片桐 康晴	昇格	主任	農学部・生命農学研究科教務学生係
2019.4.1	佐塚 隆志	昇格	教授	生物機能開発利用研究センター
2019.4.1	村井 美和	昇格	図書系主任	附属図書館東山地区図書課農学図書係
2019.4.1	田嶋 千紗子	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科経理係
2019.4.1	BELLEGARDE Fanny	採用	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.4.1	柳澤 琢人	配置換	係長	農学部・生命農学研究科庶務係
2019.4.1	仲田 麻奈	配置換	助教	農学国際教育研究センター研究展開部門
2019.4.1	徳田 博美	採用	教授	大学院生命農学研究科植物生産科学専攻
2019.4.1	堀之内 優子	配置換	係長	農学部・生命農学研究科研究支援係

日付	氏名	異動内容	職名	所属
2019.4.30	宮田 真路	退職	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.6.1	山本 一清	昇格	教授	大学院生命農学研究科森林・環境資源科学専攻
2019.6.1	野田口 理孝	昇格	准教授	生物機能開発利用研究センター
2019.6.1	小林 正寿	採用	教授	大学院生命農学研究科
2019.6.30	榊原 陽子	退職	主任	農学部・生命農学研究科研究支援係
2019.7.1	高谷 信之	配置換	特任助教	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.7.1	永井 美帆	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科研究支援係
2019.7.1	澤田 杏美	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科教務学生係
2019.8.31	安立 昌篤	退職	講師	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.9.1	飯田 敦夫	採用	助教	大学院生命農学研究科動物科学専攻動物科学
2019.10.1	佐藤 ちひろ	昇格	教授	大学院生命農学研究科応用生命科学専攻
2019.10.1	細川 英則	配置換	専門職員	農学部・生命農学研究科事務部
2019.10.1	黒谷 賢一	配置換	特任講師	生物機能開発利用研究センター
2019.10.1	佐野 真里	配置換	事務職員	農学部・生命農学研究科用度係

平成30年度事業報告

- 卒業50周年記念祝賀会の開催
平成30年6月9日、名古屋大学農学部大会議室において第14回卒業生、修士第12回修了生の卒業50周年記念祝賀会を農学部談話会と共同で開催した。
- 総会、講演会、懇親会の開催
平成30年6月9日、名古屋大学農学部において総会を行った。
総会終了後、吉木淳氏〔理化学研究所バイオリソース研究センター実験動物開発室 室長、第31回（昭和60年3月）農学部畜産学科卒業〕による講演会「実験動物マウス：高次生命機能の解明と疾患克服のためのモデル生物」を開催した。講演会終了後、名古屋大学「レストラン花の木ミーティングルーム」にて懇親会を開催した。
- 卒業・修了祝賀会の開催
平成31年3月25日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催した。卒業・修了証書授与式において、農学部同窓会関東および関西支部長から各支部の紹介をして頂いた。
- 会報「セコイア通信」の発行
平成31年3月に発行した。
- ホームページの作成と管理
同窓会員の情報交換を促進し、活動の状況を広く会員に知ってもらうことを目的に、同窓会ホームページのリニューアルを進め、充実をはかった。
- 同窓会名簿の管理
全学同窓会名簿システムと連携し、同窓会名簿データの更新を行った。また要請に基づいて名簿情報の提供を行った（5件）。
- 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事に役員を出し、運営に協力した。
- 評議員制度の実質化
新たな会員ネットワーク拡大と活動活発化の機会を増やすため、本年度卒業・修了生から評議員を選出し、ホームカミングデー（平成30年10月20日）に評議員会を開催した。

令和元年度事業計画案

- 卒業50周年記念祝賀会の開催
令和元年10月19日、第15回卒業生、修士第13回修了生の卒業50周年記念祝賀会を開催する。
- 総会、講演会、懇親会の開催
令和元年10月19日、名古屋大学農学部において総会を行う。
総会終了後、能木雅也氏〔大阪大学産業科学研究所 教授〕による講演会「セルロースナノファイバーを使った未来のデバイスと名大農学部で学んだこと」を開催する。
- 卒業・修了祝賀会の開催
令和2年3月25日に第7講義室にて卒業・修了祝賀会を開催する。
- 会報「セコイア通信」の発行
令和2年3月に発行する。
- ホームページの作成と管理
同窓会員ホームページのリニューアルを完了するとともに充実をはかる。
- 同窓会名簿データの管理
同窓会名簿データの更新を行うと共に、要請があった際には名簿情報の提供を行う。
- 全学同窓会への協力
全学同窓会幹事に役員を出し、運営に協力する。
- 評議員制度の実質化
評議員制度の実質化を進める。

名古屋大学農学部同窓会 平成30年度決算

平成30年4月1日～平成31年3月31日

【収入の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会費等	2,121,500	永久会費	1,440,000	72名
		一般会費	250,000	50名
		寄付金	371,500	71名
		広告掲載費	60,000	4件
第14回卒業50周年祝賀会費	46,000		46,000	23名
平成30年度総会懇親会費	19,000		19,000	19名
前年度繰越金	22,589,633			
合計	24,776,133			
(実質収入 2,186,500)				

【支出の部】

費目	決算	細目	金額	備考
会報発行費	1,364,834	会報印刷・発送	1,363,106	9900部(8800部発送)
		振込手数料	1,728	2件
平成30年度総会	214,030	講師講演料	30,000	
		講師交通費	24,000	
		役員交通費	41,000	3名
		懇親会費	119,030	
第14回卒業50周年祝賀会	71,372	飲食代	21,730	
		事務費	49,642	案内状・写真印刷・発送
評議員会、 ホームカミングデー	79,356	飲食代	59,358	
		役員交通費	2,000	学外理事評議員会出席
		事務費	17,998	
卒業・修了祝賀会	255,760	飲食代	110,760	
		記念品代	130,000	
		役員交通費	15,000	1件
役員報酬	144,000	役員報酬	144,000	12名×12,000
支部支援金	90,288	関東支部	60,000	
		関西支部	30,000	
		振込手数料	288	2件
アルバイト代	270,000			事務補助
郵便振替手数料	21,194			
その他諸費用	27,166	交通費	8,000	学外理事理事会出席(4回)
		課税納付	18,186	役員報酬・講演料・アルバイト代
		通信費	980	広告費請求用
次年度繰越金	22,238,133			
合計	24,776,133			
(実質支出 2,538,000)				

名古屋大学農学部同窓会 令和元年度予算

平成31年4月1日～令和2年3月31日

【収入の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会費等	2,190,000	永久会費	1,400,000	70名
		一般会費	250,000	50名
		寄付金	420,000	70名
		広告掲載費	120,000	8件
前年度繰越金	22,238,133			
合計	24,428,133			
(実質収入 2,190,000)				

【支出の部】

費目	金額	細目	金額	備考
会報発行費	1,400,000			10000部 (8900部発送)
令和元年度総会	188,000	講演料	30,000	
		講師交通費	15,000	
		役員交通費	43,000	3名
		懇親会費	100,000	
第15回卒業50周年祝賀会	100,000	飲食代	50,000	
		事務費	50,000	印刷・発送
評議員会・ホームカミングデー	100,000	飲食代	80,000	
		事務費	20,000	印刷・発送
卒業・修了祝賀会	281,000	飲食代	110,000	
		記念品代	130,000	
		役員交通費	41,000	3名
ホームページ管理費	50,000			
役員報酬	168,000		168,000	14名×12,000
支部支援金	90,000	関東支部	60,000	令和元年度分
		関西支部	30,000	令和元年度分
アルバイト代	270,000			事務補助
郵便振替手数料	22,000			
その他諸費用	53,000	交通費	26,000	学外理事理事会出席
		課税納付	17,000	役員報酬・講演料・アルバイト代
		事務費	10,000	発送費、文房具など
剰余金	21,706,133			
合計	24,428,133			
(実質支出 2,722,000)				

農学部同窓会ホームページ案内

農学部同窓会の活動や、農学部研究室の変遷などに関する情報は、農学部同窓会ホームページ (<https://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/>) に掲載中です。住所変更の案内もございます。ぜひご覧ください。ホームページに対するご意見、ご要望等ございましたらぜひお寄せください。(担当：小田 hirooda@agr.nagoya-u.ac.jp)

関東支部だより

関東支部長 石川 靖文 (S56食 D)

関東支部では、昨令和元年11月30日（土）、東京神田神保町学士会館302号室で第22回総会を開催した。参加者は、当初36名（ゲスト2名、特別2名、会員26名、同伴1名、研修5名）であったが、急な都合で2名が欠席、最終的に34名となった。特別枠では、学士会事務局から会員企画・池田隆太郎さんと広報渉外・薄井敦子さんに、また「紅茶の講演」（後述）については、研修枠を設け、学士会館内レストラン勤務のスタッフ有志の方々に、それぞれご参加いただいた。

総会の部では、春日井 治事務局長（S47農）の司会進行で、小職から支部の現況報告と規則改正の提案を、次いで若松利男監査役（S49食 M）が、会計・監査報告を、それぞれ行った。講演の部は小西千晶幹事（H2林産）の司会進行で、鳥類バイオサイエンス研究センター教授の松田洋一先生（S57畜 D）に「驚きの性の進化史」を、三井農林株式会社 茶技術顧問の三浦宣安さん（S50農化）に「世界の紅茶とその試飲」を、それぞれお話しいただいた。松田先生の講演の概要は、学士会の総合情報誌『NU7』本年7月号に掲載し、昨年5月号同様、全教職員、学部3年以上の全学生、及び本部総会参加者などに配布の予定である。

現況報告・規則改正では、支部運営の円滑化のため、幹事の中に「副支部長」を置くこと、一般会員の中に「連絡員」を設けることを提案し了承された。これを受け、小西幹事を副支部長に推挙、本人了承と総会での承認を得た。会員の女性比率が急速に高まっている現状に於いて、小西幹事の副支部長就任は、女性会員の同窓会に対する親近感を高めるものといえよう。「会計・監査報告」では、経費処理の適正が確認された。また支部会計の窮状にも言及、今回から参加費とは別に「寄附金」を募ることになった旨の連絡がなされた。

松田先生の『性の進化史』は、性染色体の定義、X染色体とY染色体の発見の経緯から始まり、動物の性決定様式の多様性、ヒトのY染色体の退化と続けられたが、正に驚きの連続であった。

例えば、昆虫は細胞ごとに性を持つので半身雄・半身雌の個体が発生する（スズムシ、クワガタムシなど）が、ヒトや他の脊椎動物では個体レベルで性の特徴が出現するので、そのようなことはない。脊椎動物の性決定様式には、遺伝的なものと環境的なものがあるが、ワニの雌雄は孵卵時の環境温度によって決まる。恐竜の絶滅も、隕石衝突に起因する環境温度の急激な変化への不適応で性比が偏ったためとの仮説が成り立つ。クマノミ（一夫一妻）は、雌（妻）がいなくなると雄（夫）が雌に代わり、大きな未成熟個体が雄になる。ホンゾウメワケベラ（一夫多妻）は、雄（夫）を取り除くと最大の雌（妻）が、雄の役割を担う——等々。

「性の進化」については、新聞や雑誌で時折、ヒトのY染色体は退化の一途をたどり、やがて消失して

しまふ！——といったことがセンセーショナルに報じられるが、実際には、ヒトのY染色体上にある78個の遺伝子のうち、性決定や精子形成に必須な30個くらいは、2億年以上の時間を経ても保存されており、寧ろ機能単位として究極的な進化を遂げた安定な状態にあり、簡単には消えることはないとのことであった。この辺りも含め、先生の御著書「性の進化史 いまヒトの染色体で何が起きているのか」（新潮選書、2018）を読むことで、体系的に理解することができる。

小職としては、36年前に一度お会いしたことのある故・大野 乾（すすむ）先生（米 City of Hope National Medical Center、秋篠宮皇嗣殿下の学位論文指導者のひとり）のお姿をスライドで拝見し、感慨深いものがあった。後に人を介して頂いた御著書は、忙しさにかまけ未読のまま書棚にあり、不明を恥じ入るばかりではあるが、今回の松田先生のお話で、大野先生の御業績の位置づけがハッキリした思いがしたものである。

三浦さんの『紅茶』は、世界の茶葉の生産地と生産状況の紹介から入り、紅茶の製造法、代表的な紅茶の紹介の順に進んだ。茶葉の生産は長らくインドがトップであったが、10年前から中国に代わる一方、新興のケニアが急上昇で3位。日本への輸入は、スリランカ、インド、ケニアの順とのことであった。製造方法は緑茶のそれと比べて説明され、酸化酵素による茶葉の醗酵工程が紅茶の特徴であることが強調された。

紅茶の個別の説明と試飲は、インドの「アッサム」「ダージリン」、スリランカの「ディンブラ」「ウバ」、日本の「やぶきた」「べにふうき」の6種類で、それぞれを、生産地の地形・気候・風土などを写真で紹介しながら試飲するといった体裁で進められたが、さながら観光名所案内の趣であった。試飲者からは、「紅茶の飲み比べは初めて。自分の好みを知ることが出来た」「いつもはミルクティーで飲んでいる。素の紅茶も様々あって味わい深い」などの感想が聞かれた。日本の紅茶のクセのなさは、なるほど和風テイストであった。

お土産として「日東紅茶」の各種紅茶パックが配られた。今回試飲した海外紅茶や国産紅茶の詰め合わせ、Tea Book 紅茶の本』の「紅茶 All in one」といったものであった。10年くらい前から、紅茶の健康機能に関するニュースが散見されるが、これについても言及があった。三浦さんは、今年は紅茶製造工場の建設でインドに赴くとの由。ご健闘をお祈りしたい。



一連の講演の後、司会進行を宇佐美雅敏幹事（S50農化）に交替。まずリラックスタイムとして、森中定治さん（S47農）に、レハール作曲のオペレッタ「微笑みの国」の Aria から「我がすべての命を捧げる」のテノール独唱を披露していただいた。森中さんは歌唱コンクールの常連で、前10月開催の第8回ウィーンオペレッタコンクールアマチュア部門シニアの部で第1位に輝いたばかりであった。次いで森中さん指揮の下、学生歌「若き我等」を参加者全員で斉唱、松田先生と三浦さんを囲み全員で記念写真を撮影し、一旦休憩の後、懇親会の運びとなった。

懇親会では、朱宮正剛顧問（S39畜）の発声で、農学部清酒「なごみ桜」で乾杯し歓談に入った。旧交を温め直しはしゃぐ同期6人、淡々と渋く語り合う常連3人、再会を喜ぶ先輩と後輩、新卒会員に蘊蓄を傾ける某幹事、講師を囲み談笑する一群——等々、同窓の気安さで、大いに語らい、交歓した。懇親会終了後は、館内のカフェ＆ビアパブ「SEVEN'S HOUSE」で松田先生を囲んで二次会を開催した。新卒会員を含む12名の参加であったが、和やかな雰囲気の中、講演の補足質疑、知友の消息交換、懐古談、大学の現況、定年後の生活談義など、様々な会話を楽しんだ。

次回第23回総会は、本年11月14日（土）13:30～17:30 今回と同じ学生会館302号室で開催、生命農学研究科長・農学部長の土川 覚先生に、大学の現状と先生のご研究についてお話しいただく予定である。また別途、関東地域に就職・進学の新卒者を対象とした歓迎昼食会を6月6日（土）学生会館内の和食レストラン「二色」（にしき）で開催の予定である。いずれへも多数のご参加をお待ちしている。

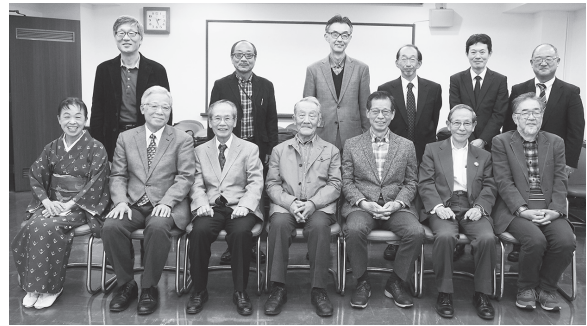
支部 HP : <http://www.nua-alumkanto.sakura.ne.jp/>
支部連絡先 E-mail : alum-kan@agr.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学農学部同窓会関西支部だより

関西支部長 加藤 壽郎（S45農 M）

関西支部は、本年で発足15年となりました。毎年一度、11月に同窓会総会や懇親会を行うことを主な活動としております。2019年度は、11月9日土曜日の朝10時から午後3時まで、大阪の中央電気倶楽部にて、同窓会を開催することができました。13名の同窓生の方にお集まりいただき、楽しい一日を過ごしました。

本年度のご講演は、岐阜大学名誉教授の馬路泰蔵先生（S40農化）に、「江戸期の白川郷の経済を支えた意外な産業—焰硝（硝石）生産—」と題してお話をいただきました。白川郷は、昔ながらの合掌造りが大小100棟あまりと数多く残り、今なおそこで人々の生活が営まれている集落として有名です。ユネスコの世界遺産に登録されたことで知名度が上がり、国内外から毎年数多くの観光客が訪れています。



私などは、合掌造りというとお蚕さんをたくさん飼って、絹の生産をしていた、というイメージなのですが、合掌造りの中で、意外のものが作られていたことを教えていただきました。合掌家屋の床下に穴を掘って、畑土、蚕糞、人尿、山草、農作物の廃棄部分を原料として焰硝土を培養して硝石を生産していたのです。硝石は、黒色火薬の原料として必須ですが、水溶性が高く通常の条件では生成されても流失してしまい、通常は自然界に存在しないようです。戦国時代以降、盛んとなった火器使用のため、火薬材料として渴望されていた硝石は、大きな需要があったわけです。

馬路先生は、合掌家屋床下の土壌の分析を行い、確かに焰硝土が製造されていたことを確認されました。しかも、相当量を製造していたようで、当時の白川郷を豊かにしたようです。白川郷のあまり知られていない側面を教えていただいて、参加者皆さん、大変面白く拝聴いたしました。

午前中に、総会議事およびご講演を終え、午後は例年通り懇親会を開きました。毎年、参加者全員に近況をお話しいただくことが同窓会行事のうち大変楽しみなことの一つです。お話を聞いておきますと、皆さん、大変に前向きで新しいことに次々とチャレンジされ、有意義な人生を送っておられることがよくわかります。また、そんなお話を聞くことで、お互い刺激しあうことができ、自分もやってみようといった話にもなっています。

さて、2018年より、新卒の関西地方就職者に、同窓会関西支部の活動に参加されるように呼び掛けております。2019年は、学部ご卒業の方44名のうち12名が、また、修士ご卒業の方123名のうち45名が関西地方に就職されるということでありました。最近、多くの方が関西地方に就職されていることを知って、びっくり致しておりますが、新人の方にも関西支部の同窓会にご参加いただき、支部の活動を盛り上げていただきたく思っております。

さて、2020年度は、11月7日土曜日、10:00～15:00に、第16回同窓会総会および講演会を実施する予定です。連絡先は以下の通りですので、ご参加希望の方は、是非、ご一報ください。

（事務局）寺前 朋浩（S61生 M）

〒669-1103 兵庫県西宮市生瀬東町37-23

E-mail : rikatomo@ares.eonet.ne.jp

名大遠州会だより

佐々木 健 (H5畜)

名大遠州会は、静岡県西部（大井川以西）に居住または勤務する名古屋大学、大学院またはその前身校出身者から構成され、平成8年に設立されました。同窓会を毎年、また総会は隔年で開催しています。本年は6月8日（土）に名古屋からの来賓をお迎えし、会員約65名が出席して総会ならびに同窓会を開催しました。最初に恒例となった出席者での写真撮影を行い、南方遠州会会長の挨拶の後、工学部OBの光産業創成大学院大学瀧口義浩学長による「光創成大学院大学が進めている光を使った新しい産業創り」、名古屋大学松尾清一総長による「新しい国立大学像を目指す名古屋大学の挑戦」と題した講演が行われました。また伊藤義人全学同窓会副会長からは岐阜支部設立のお知らせが、和田壽弘代表幹事からは講演会や企業内同窓会の紹介がありました。

その後、野村副会長の乾杯発声で懇親会をスタートし、各会員の1年ぶりの再会を大いに楽しみました。懇親会の中盤では名大オリジナル商品や各幹事の提供品を景品としてビンゴゲームが行われ、老若男女を問わず出席者はたいへん盛り上がり、終始和やかな雰囲気の中、黒木副会長の中締めで20時40分に終了となりました。

さて、本年は第13回総会と第25回同窓会懇親会をオークラアクトシティホテル浜松にて、6月13日（土）に開催予定です。遠州会会員の皆様には例年通り4月頃に案内状を郵送しますので、奮ってのご参加をよろしくお願いいたします。また、遠州地区にお住いでこのセコイア通信をお読みの方（名古屋大学農学部や大学院生命農学研究科の卒業生）で、本「遠州会」にご興味をお持ちの方は、当方にメール等でご連絡くださいればご案内いたします。

最後に、昨年に引き続きこの遠州会開催の地「浜松」の紹介ですが、やはり浜名湖の避けては通れないようです。浜名湖は日本で10番目の大きさの湖で、もともとは海と隔てられた淡水湖でした。しかし室町時代の大地震で海岸線が決壊して太平洋とつながり、今のような淡水と海水が混じる汽水湖になったそうです。また面白いことに海と直接つながっているの、法律上



では湖ではなく浜名湖にそそぐ都田川の「河口（の太くなった部分）」という扱いになっているそうです。一方、汽水湖であるため豊富な魚介類が生息しており、ウナギ、ノリ、カキ等の養殖も盛んですが、最近ではウナギの稚魚が不漁なこともあり、スッポンの養殖が盛んになりつつあるとも聞きます。これをお読みの皆様も、浜松を訪れになった際には浜松産のスッポンを食されても良いかもしれませんね。私はまだ食べておりませんが…。それでは今回はこの辺りで失礼いたします。

連絡先：遠州会農学部幹事 佐々木 健
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
浜松医科大学 器官組織解剖学講座
Tel：053-435-2293 Fax：053-435-2290
E-mail：tsasaki@hama-med.ac.jp

農学部談話会だより

農学部談話会世話人代表 織田 銈一

農学部談話会は2002年に当時の名誉教授の齊藤哲夫（農）・瓜谷郁三（芸化）・鈴木太七（林）・寺沢真（林産）・並木満夫（食）・保田幹男（畜）によって「農学部OBOG どうしの親睦、現役の方々との交流を図るために気軽に歓談する機会を」との趣旨で設立されました。規約には「会員相互の親睦連絡を図り、合わせて名古屋大学農学部及び同大学院生命農学研究科の発展に寄与することを目的とする」、会員は「名古屋大学農学部及び同大学院生命農学研究科に関わる元教授、元幹部職員、現役役員、同窓会役員、その他会が認めた者をもって構成する」となっています。例会は2018年までほぼ年3回、通算50回開催され、主に元教職員の方々に参加を呼びかけてきました。

2018年11月に農学部・生命農学研究科の川北研究科長（及び土川副研究科長）と談話会世話人（磯部、柳沼、織田）とで、談話会・同窓会との関係に関して打ち合わせを行い、問題意識を共有しました。この件については昨年の「セコイア通信」で報告しました。とくに農学部を支える名古屋大学基金が創設（将来計画の一環）され、OBOGなどの協力が待たなしに必要な時期にあること、そのため談話会・同窓会を研究科での対応・運営の一部署として位置づける、開催時期と開



- ・吉田久美 情報学研究科教授と青木弾 生命農学研究科講師らは、アジサイの花の色を青にする色素成分を直接確認することに成功 2019.4.14 日経
- ・書籍「酒を食べる エチオピア・デラシャを事例として」 砂野唯 生命農学研究科特任助教 2019.5.18 朝日
- ・岐阜大学 と名古屋大学を傘下に置く新法人東海国立大学機構について、岐阜大学の森脇久隆学長が20日、記者会見で概要を説明。岐阜大学が力を入れる「糖鎖」研究拠点は、東海機構の直属の研究組織となる 2019.5.21 朝日
- ・人間発見：農業と社会をつなぐ① 福島県で初の農学部 復興への貢献めざす 福島大学 生源寺眞一教授（元本学教授） 2019.5.22 日経（夕刊）
- ・人間発見：農業と社会をつなぐ② 学生結婚し農林省へ研究の傍らで農作業 福島大学 生源寺眞一教授（元本学教授） 2019.5.22 日経（夕刊）
- ・人間発見：農業と社会をつなぐ③ 農家の行動は合理的 北の大地で得た確信 福島大学 生源寺眞一教授（元本学教授） 2019.5.23 日経
- ・ひゅーまん愛知：基礎生物学研究所 新美輝幸 教授（元本学助教） 2019.5.27 読売
- ・東海サイエンス：人気昆虫の謎を知ろう 新美輝幸 教授（元本学助教） 2019.5.30 読売
- ・名古屋大学「フューチャー・アース研究センター」が、持続可能な地域社会を考える名大・岐阜大学の合同ワークショップを名古屋市内で開催 2019.6.21 中日
- ・名古屋大大学院の農学修士号を持つ43歳の異色の狂言師、鹿島俊裕が14日、「第20回記念御洒落名匠狂言会」で大曲の「釣狐」の披きに挑む 2019.7.9 中日（夕刊）
- ・愛知県施設でも豚コレラ 農業試験場700頭処分へ 名古屋大学農学部に凍結受精卵約500個を移管 2019.8.10 朝日
- ・中日健康フェア：9月15日 吉村崇 トランスフォーマティブ生命分子研究所教授が講演、16日 石上雅敏 医学系研究科講師が講演 2019.8.18 中日
- ・先端人：未知の胎生魚 多様性探る 飯田敦夫 生命農学研究科助教 2019.11.3 朝日

同総会寄付者一覧

(2019.1.24～2020.1.31)

本年度、農学部同総会に対し以下の方々より寄付金をいただきました。ありがとうございました。(敬称略)

青木 孝良	青木 瑞希	磯部 恵子	伊藤 節嗣	伊藤 義人
井上 忠彦	今井 克彦	植田 幸秀	内山 雅春	梅村(永津)武夫
浦部 普亘	江川 明裕	大久保忠旦	大島 光昭	大藤 雅章
大貫 敦嗣	大橋 偉郎	沖本 光徳	小澤 堯	小野 咲奈
加藤 隆博	可児 千尋	木村 恭文	栗原 佳那	栗本 重夫
桜井 勇	佐々木 庸	新海 義秋	杉浦(磯村)克己	鈴木 遼平
高橋(山崎)登枝子	舘本 勲武	田畑 望実	津田 夏帆	中脇 修二
長坂 圭造	成瀬 和也	長谷川靖彦	平井 篤志	平田 國義
平野 忠美	広田 知敬	古田 隆則	松尾 大和	松本(金田)和子
松本 庸夫	三浦 宣安	三角 正俊	水上(村上)優子	水野 修一
水野 雅之	水野(渡邊)涉	宮下 武也	村越有里子	山木 昭平
山崎 健	山田 勝成	山田 壽美	山本 義典	横地 修
渡辺 広次				

全学同窓会だより

社会に開かれた指定国立大学として名古屋大学が発展していくためには、大学と同窓会の緊密な連携が必要とされており、大学と同窓会は連携して社会に一層の情報公開を行い、社会から種々のニーズを汲み上げる必要があります。また、同窓生にとって、専門分野を越えての情報交流は従来にも増して重要になってきました。こうした時代背景の中、全学的な見地に立って、部局同窓会と連携しながら卒業生、学生、教職員の交流の場を提供し、名古屋大学全体の種々の活動に関する情報を発信することを目的として、平成14年に全学同窓会組織が設立されました。現在、農学部同窓会からは3名が全学同窓会幹事（福島和彦、山本浩之、三浦健）として参画しています。

全学同窓会は、2019年度、以下の活動を行いましたのでご報告いたします。

1) 同窓生名簿の整備

大学が運営する「卒業生等名簿管理システム」の整備と運営に協力し、部局同窓会に住所等移動データを提供しました。

2) 財政基盤整備

同窓会カードの普及、およびカード優待店舗の拡大戦略を検討しました。カード入会案内を学内教職員に送付し、入会を呼びかけました。また、新入生の保護者に対し「活動協力金のお願い」を入学手続き時に配布し全学同窓会活動の支援のお願いしました。さらに、卒業式当日、全卒業生・修了生に「カード入会案内」を配布し、入会を呼びかけました。

3) 拠点形成

関東支部講演・交流会（2020年2月8日）、遠州会第24回同窓会（2019年6月8日）、関西支部第14回総会・講演会（2019年5月18日）、岐阜支部設立総会（2019年6月29日）等、各支部との連携・支援を行いました。

また、海外支部への財政的支援（支部費）を行うなど連携強化を推進しました。継続して検討してきましたスリランカ支部設立は、スリランカ国内の状況により設立は延期することとしました。

4) 全学同窓会活動の運営基盤整備

第3回「名古屋大学同窓会サミット」を2019年7月27日に野依記念学術交流館で開催しました。また、11月27日に学士会と共催で、小笠原文雄全学同窓会岐阜支部長による講演会を実施し、その後に夕食会を開催しました。

5) 学生支援

寄附講義「キャリア形成論」（卒業生が講師を務める全学教養科目）の支援（50万円）を行いました。

「大学対抗英語ディベート世界大会への挑戦」、および「混声合唱団コール・グランツェ 全日本合唱コンクール全国大会出場及び優勝に向けての練習」等の学生活動を支援しました。また、名大祭パンフレットに全学同窓会活動を紹介する広告を掲載しました。

6) 大学支援

名古屋大学基金活動を支援しました。また、令和元年10月19日に開催されたホームカミングデーを共催し保護者等対象企画行事参加者及びスタッフに昼食を提供する経費として100万円寄付しました。さらに、ホームカミングデーにおいて「農学部創立70周年に向けた卒業生との連携強化の取り組み～第15回ホームカミングデーにおける同窓生及び在学生及び教職員との交流支援」事業等を支援しました。

7) 広報活動

Newsletter No. 32（2019年10月）、No. 33（2020年3月）等を発行しました。また、全会員に情報発信する費用として300万円を大学に寄付しました。

こころとからだの健康のためにゴルフを楽しみませんか！

名古屋大学農学部のOBで、年2回（5月と11月）ゴルフコンペを開催している「AGRI60」という会の紹介をします。会場は、人気の高い愛知県尾張旭市にある「ウッドフレンズ森林公園ゴルフ場」で開催しています。名前の通り、60歳以上の方（定年されて自由な時間ができた方々）が、平日に和気あいあいと自然の中で体を動かし、ナイスショット、ミスショットに一

喜一憂している会です。

今回は、2020年5月21日（木）ウッドフレンズ森林公園 西コース の開催です。

ご参加（入会）希望の方は、連絡先：（幹事）中村博明（林産 S47年卒） TEL090-3839-2101 または、メールアドレス：hiro-naka-kei@infoseek.jp まで

事務局だより

事務局では農学部同窓会会員録データの改訂を行っています。転居および転勤の際は、同窓会事務局 (dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp) までご連絡ください。今後も会員の皆様からのご質問・ご要望にお応えして参りたいと考えております。ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

天然と合成を融合して
地球に優しい
健康美と機能美を創造する
ソリューション開発型
化学品メーカー



株式会社 岐阜セラツク製造所

TEL:058-272-0831 FAX:058-272-0704

千年少年

Sennen Shonen

1000年先の地球と語り合う、少年のような視点と、純粋な心。

地球という大きな星が与えてくれた
シンプルでピュアな贈物、
それは記憶の中の少年の目と
心にくっきりと映っている。
一杯の水、大地の実り、雨の恵みや、木の木陰・・・
地球がくれるシンプルな贈物について、
私たちは真面目に考えたいと思う。
壮大なプロジェクトの中に、高度な技術の結晶の中に。
千年先の地球と共に。



SCI 株式会社三祐コンサルタンツ
Sanyu Consultants Inc.

“おいしい”はエサで、できている

中部飼料株式会社

[本 社] 愛知県名古屋市中区錦二丁目13-19

[事業内容] 配合飼料の製造販売、
有機入り配合肥料製造販売等

[問合せ先] 052-204-3051
cjinji@chubushiryo.co.jp
採用担当：山崎

各種高圧ガス及び設備の設計・施工
高圧ガス関連機器・各種実験機器



有限会社
アルファシステム

〒465-0013 名古屋市名東区社口1-1004
TEL. 052-776-4567 FAX. 052-776-4568
<http://www.alphasystem.biz>



印刷業から情報デザイン業へ

Info. + Design

長年培った表現技術を活かし、「印刷業」から
「情報デザイン業」へと進化していきます。

販促支援サービス

マニュアルサービス

P&Dサービス

教育出版支援サービス

株式会社 **クワイックス**

<http://www.kwix.co.jp>

■本 社 〒448-0025 愛知県刈谷市幸町2-2
TEL 0566-24-5511 FAX 0566-26-0200

代表取締役社長 岡本 泰

全国同窓会名簿作製・同窓会アドバイザー

SALAT
Salat Corporation

株式会社 サラト <http://www.salat.co.jp/>

本社 兵庫県姫路市北条宮の町172
Tel.079-284-1380 Fax.079-224-7746

竹本油脂の挑戦は
ごま油、そしてスペシャリティケミカルへ
食卓から宇宙までひろがっています



【本社・研究所】 愛知県蒲郡市
【事業内容】 特殊精密化学品(界面活性剤等)
ごま油の製造販売
【売上高】 738億円(2018年)
【社員数】 621名(うち名大 生命農学出身36名)
【国内事業所】 東京 大阪 福岡
【海外拠点】 アメリカ 中国 台湾 インド

酒類、醤油、調味料、味噌、漬物、清涼飲料水の製造及び販売



盛田株式会社



【本社】〒460-0008
愛知県名古屋市中区栄一丁目7番34号 電話番号 052-229-1600
<http://moritakk.com/>

理化学器械・研究設備・光学機器・ガラス器具

主要取扱メーカー

アズワン 三洋電機
東京理化学 タイテック
旭硝子 日本エイドー
久保田商事 アトー
名古屋三立製作所 アドバンテック東洋

MZH

株式会社みずほ理化

〒468-0066 名古屋市天白区元八事一丁目33番地
TEL 052-831-8800
FAX 052-834-4117
E-mail: mizuhorika@k2.dion.ne.jp


mizkan
やがて、いのちが変わるもの。



農学部同窓会事務局では、広告の募集をしております。本会報の発行部数は、現在約10,000部で、本学農学部関係者に配布されています。会社の広告、同窓会の通知などにご利用下さい。

詳しくは、同窓会事務局まで。

個人情報の取り扱いについて

名古屋大学農学部同窓会では個人情報の正確で適切な管理に万全を期するため、会員データの管理を株式会社サラトへ委託しております。株式会社サラトは愛知県内約80校全国約1,500校の同窓会で会員データ管理を手がけ個人情報保護法に最も精通したプライバシーマーク取得企業です。なお、サラトは得られた個人情報を責任を持って厳重に管理し、個人情報を第三者に開示または提供しないことについて、名古屋大学農学部同窓会とサラトとの間で契約を取り交わしております。